

日本福祉大学
学長
加藤幸雄



【学長プロフィール】かとう さちお ●1947年生まれ。名古屋大学教育学部卒業。岐阜家庭裁判所調査官補、名古屋家庭裁判所調査官、水戸家庭裁判所土浦支部主任調査官を経て、88年日本福祉大学赴任。同大学学生部長、学長補佐兼総合企画室長、副学長などを経て2009年より現職。臨床心理士。

【大学プロフィール】1953年創立。社会福祉学部、経済学部、福祉経営学部（通学課程は募集停止）、子ども発達学部、国際福祉開発学部（以上美浜キャンパス）、健康科学部、情報社会科学部（募集停止）（以上半田キャンパス）ほか、通信教育部（福祉経営学部）、大学院4研究科。

つなぎ、つながりあうという 人間同士の付き合いなくして 福祉の仕事は務まりません

2008年度に、3学部（健康福祉開発学部）を新設し、11年度には社会福祉学部および経済学部で新カリキュラムを始めるなど、変革を続ける本学。ただし大学全体のコンセプトが福祉であることに変わりはありません。福祉の領域は、従来の社会福祉の枠を超え、経済、教育、工学などさまざまな分野に広がっています。そのため本学ではあえて「ふくし」と表記し、「いのち」（健康・医療）、「くらし」（経済・福祉）、「いきがい」（教育・発達）の3領域からアプローチしています。

各学部で育てたいのは、学究よりは実践の人。社会に参加し、共生しながら、貢献できる人です。多様な人々と相手にする福祉の仕事は、共生能力がないと務まりません。そのため、現場で鍛えてもらうことを念頭に、海外研修やフィールドワークなど、他者とかかわる機会を数多く設けています。例えば、社会福祉学部の2年次に行われるサービスマーケティング（ボランティア活動を通じた体験学習）は、NPOの協力のもと企画から報告まで実社会に直接にかかわるプログラム。実践を通じて沸き立つ力に期待しています。事実、参加した学生は研究報告の場では、大勢の前で堂々と発表を行います。また

必修の海外研修において、片言だけでも、物怖じせずに外国人と会話をする国際福祉開発学部の学生がいます。保護者の方々や高校の先生にぜひお見せしたい姿です。

日本で一番歴史のある社会福祉学部をもつ本学は、全国いたる所に卒業生がいます。いわば支えあいながら自立できる体制をもっているわけです。また、「生涯学習型ネットワークキャンパス」と称する通信教育や、オンデマンド教育にも人と人が触れ合えるコミュニティを積極的に設けています。キーワードはやはり参加と共生。ぜひ、在学中も卒業後も、人とのかわりの輪を広げてほしいと思います。

例えば、私に対する印象も大学案内の挨拶文を読むのと、実際に会って話すのでは違うように、互いに向き合っているから伝わることも多いでしょう。本学が大切にしたいのはまさにそこ。つなぎ、つながりあうという人間同士の付き合いなくして福祉の仕事はできません。車椅子を押すとき、教科書通りに声掛けすることが必ずしも良いとは限りません。黙ってそっとしたほうが良いことだってあります。そうした心情的機微がわかる人間になってほしい。それには経験を積む必要がありますが、その一歩を、この大学で踏みだしてほしいのです。